

平成22年度第2次札幌新まちづくり計画事業進行調書(その1)

施策体系コード	2-3-2		事業名	さっぽろコンテンツマーケット創出事業
担当	経済局産業振興部新産業担当課コンテンツ担当係 今泉 Tel 211-2379			
全 体 計 画				
事業内容	本市内には地場のクリエイター作品のほか、これまで2年間の札幌国際短編映画祭にエントリーされた約4,300ものショートフィルムなど、大量かつ良質の資源が蓄積している。これらの資源(コンテンツ)を産業につなげるため、年間を通じて取引が行える「さっぽろコンテンツマーケット」システムの構築及び運営を行う。		＜年度別の事業内容＞	
			<p>【19年度】 効果的なマーケットシステムの構築に向けた調査業務を行う。</p> <p>【20年度】 札幌国際短編映画祭に集積したショートフィルムを中心に、作品のDB(データベース)検索とwebによるコンテンツ配信等から構成される、マーケットシステムの構築を行う。コーディネーターを配置し、売り手(クリエイター)と買い手(企業)のマッチングを行う。</p> <p>【21年度】 映画祭の作品に加え、本市内のクリエイター作品も商品として取り扱えるシステムとする。</p> <p>【22年度】 札幌国際短編映画祭のマーケット部分を拡大(分離)し、web展開のほか、店舗展開など、広く利用しやすいマーケットの整備を検討する。</p>	
事業内容・量・場・所・規模・件数等	平成19年度事業内容(決算)		平成20年度事業内容(決算)	
	○調査研究委託費:1,890千円 効果的なマーケットシステムの構築に向けた調査業務を実施した。札幌のコンテンツ産業の現況、他国での事例を踏まえ、国内では先進的な取り組みであるマーケットシステムの構築のあり方を検討した。		○マーケットシステム構築:32,083千円 マーケットシステムを構築、稼動し、コンテンツ取引が可能となった。経費は、ハードウェアリース費、ソフトウェアライセンス費、システム開発費、特許ライセンス費、回線費等。 ○コーディネーター配置:1,917千円 マーケットシステムを有効に機能させるための専門職として配置・システム登録情報の更新、利用者への広報、交渉支援、新販路開拓等の業務を開始した。	
	平成21年度事業内容(決算)		平成22年度事業内容(予算)	
	(1) マーケットシステム保守(26,430千円) マーケットシステム保守に係るハードウェアリース費(14,712千円)、回線使用料(5,292千円)、システム保守費(6,426千円)。 (2) コーディネーター人件費(3,286千円) マーケットシステムを有効に機能させるための専門職として配置。システム登録情報の更新、利用者への広報、交渉支援、新販路開拓等の業務を行う。		(1) マーケットシステム保守(23,912千円) マーケットシステム保守に係るハードウェアリース費(14,714千円)、回線使用料(3,528千円)、システム保守費(5,670千円)。 (2) コーディネーター人件費(3,000千円) マーケットシステムを有効に機能させるための専門職として配置。システム登録情報の更新、利用者への広報、交渉支援、新販路開拓等の業務を行う。	

平成22年度第2次新まちづくり計画事業進行調書(その2)

施策体系コード	2-3-2			事業名	さっぽろコンテンツマーケット創出事業		
達成目標の状況							
項目	18年度末 (現状)	19年度末 (実績)	20年度末 (実績)	21年度末 (実績)	22年度末 (予定)	22年度末 (目標)	
取引可能な映像作品等の集積本数(累計)	1,500本	3,850本	6,666本	9,107本	11,000本	10,000本	
市民・企業等との協働の状況(市民・企業等の参加、支援、協力の状況)							
<p>■市民との連携、市民参加 19年度の調査事業において、地域の民間のコンテンツ産業従事者の意見を反映するべく、ヒアリングを行い、産学官連携による効果的なビジネスモデルの構築を調査した。</p> <p>■企業等との連携・協働 [資金協力] マーケットシステムの機能の一部に北大の特許技術を利用するが、本事業の主旨に賛同を得て、利用料の減免措置を受けた。また、マーケットシステム構築に携わる地元の民間企業からは、構築費の一部負担を得た。 [人材協力] (該当なし) [情報協力] (該当なし) [その他の協力] (該当なし)</p> <p>■市民・企業等が参加しやすい環境づくり コンテンツを提供するクリエイターと買い付ける企業が多数集まり活況を生み出すように、両者の仲介役となるコーディネーターが戦略的にプロモーション活動を行っていく。</p>							
評価(成果)			課題				
21年度よりシステムを稼動しコンテンツ取引が可能となった。この新しいシステムを関係者に知らしめ利用を促進するために、コーディネーターが中心となってプロモーション活動を推進した。			全国的に先駆けた取組みとなるために成功事例が存在しないが、地域ビジネスとして成立するビジネスモデルを早期に構築していく必要がある。 また、バイヤーが大量のコンテンツから意中の作品を検索し、利用権を獲得することは大きな手間と労力を伴うため、コーディネーターによる支援体制の確立が重要である。				
今後の事業の予定・方向							
マーケットシステムに登録されたコンテンツを素材として、商品を企画、流通して商売を行う企業を地元で創出、集積させてゆく。その取り組みの一つとして、札幌国際短編映画祭と地元の企業が連動し、マーケットシステムを活用したビジネス化を進める会社を設立した。この会社や映画祭と連携しながら、互いが持つネットワークやノウハウを相互活用することで、マーケットシステムの活性化を図っていく。							

平成22年度第2次札幌新まちづくり計画事業進行調書(その3) (単位:千円)

施策体系コード		2-3-2			事業名	さっぽろコンテンツマーケット創出事業				
事業費の推移										
項目		19年度	20年度	21年度	22年度	計				
計画	事業費	—	—	—	—	—				
	財源内訳	国・道支出金								
		その他の								
		一般財源								
予算	事業費	2,000	34,000	29,716	26,912	92,628				
	財源内訳	国・道支出金	0	0	0	0	0			
		その他の	0	0	0	0	0			
		一般財源	2,000	34,000	29,716	26,912	92,628			
実績	事業費	1,890	34,000	29,716	—	65,606				
	財源内訳	国・道支出金	0	0	0	0	0			
		その他の	0	0	0	0	0			
		一般財源	1,890	34,000	29,716		65,606			
事業費の進捗率		(H19実績+H20実績+H21実績+H22予算事業費) / (計画事業費)				—				
計画との差異(予算・実績・事業内容・規模・時期等)										
《全体》 差異なし [19年度] 差異なし [20年度] 差異なし [21年度] 差異なし [22年度]										